テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14　備忘録(PATCH2.0)　サブクエスト

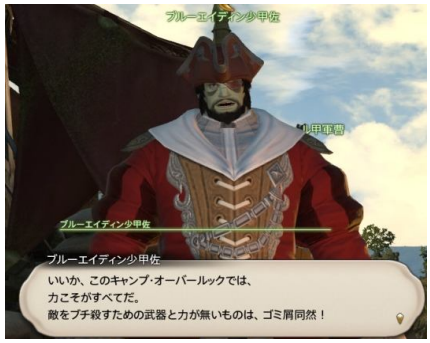
ラノシア編

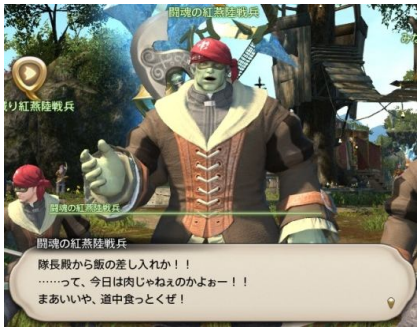
外地ラノシア

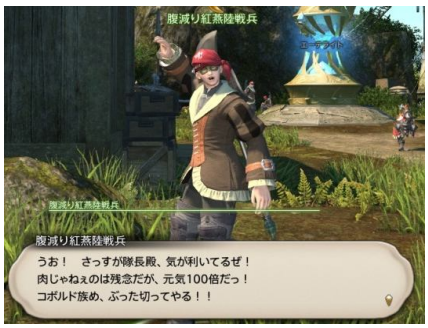
©2010－2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

戦の前の腹ごしらえ

ブルーエイディン少甲佐 ： いいか、このキャンプ・オーバールックでは、力こそがすべてだ。敵をブチ殺すための武器と力が無いものは、ゴミ屑同然！
が、さすがのオレの部下でも、腹が減っては戦えねぇ！　この「大ぶりのウォームトラウト」を焚き火で焼いて、
戦いに備えている部下たちに配ってくれないか。







闘魂の紅燕陸戦兵 ： うーっし！！　コボルド族め、いつでもかかってきやがれ！
隊長殿から飯の差し入れか！！　……って、今日は肉じゃねぇのかよぉー！！　まあいいや、道中食っとくぜ！

みなぎる紅燕陸戦兵 ： さぁって、今日も死線を潜り抜けるぜ。
今日は肉じゃないのか、俺の筋肉パワーは1割減だ……。まぁ、それでもコボルド族ごとき、ひと捻りだけどな！

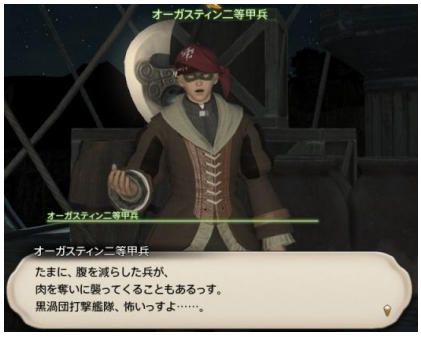
腹減り紅燕陸戦兵 ： うう、戦いの前なのに、お腹が鳴ってる……。だって、焼き魚の匂いがすんだもん……。
うお！　さっすが隊長殿、気が利いてるぜ！　肉じゃねぇのは残念だが、元気100倍だっ！
コボルド族め、ぶった切ってやる！！

ブルーエイディン少甲佐 ： がっはっはっは！　助かったぜ、オレは料理なんてできねぇからな！
これであいつらは、今日も生きて帰ってくるだろうさ！
命を賭けて戦う奴らは、皆オレの家族だ。オレは家族を死なせねぇ！　家族もオレを死なせねぇ！
それが「最狂」たる紅燕陸戦隊って奴だ！

空路を護れ

オーガスティン二等甲兵 ： キャンプ・オーバールックでは、陸路を使うと、コボルド族に襲われるってんで重要物資の輸送には、空路……気球を使っているっす。
でも、その気球がハイランド・コンドルにちょっかいを出されることがあるっすよ。
奴らをシメれば輸送が楽になるんすが……頼めないっすか？

オーガスティン二等甲兵 ： 助かったっす。この気球は、食料や武器を運んでくれる、俺らにとっては超重要なものっすよ。
たまに、腹を減らした兵が、肉を奪いに襲ってくることもあるっす。黒渦団打撃艦隊、怖いっすよ……。



コボルド族の補給を絶て

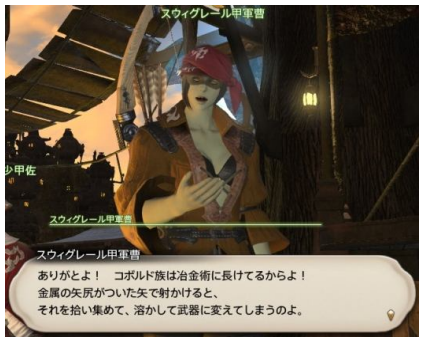
ブルーエイディン少甲佐 ： オレたちが戦ってるコボルド族ってのは、やっかいなことに、冶金技術と錬金術に長けていてな。
ゴーレムを作り出す秘術を会得してやがるんだ。
奴らは、古代のゴーレムが徘徊してる「ニーム浮遊遺跡」で秘術の材料を集めていやがる。
大量に作られちまったら、さすがにやっかいだ。
……お前、少しは戦えるようだな。オレに協力しろ。ゴーレムが量産される前に、奴らの補給を断つんだ。いいか、作戦はこうだ。
まずは「バサルトゴーレム」から、秘術の材料を奪う。次に、こいつを適当に設置して罠にするんだ。
材料集めに来ているコボルド族を発見したらブチのめせ！
それから「冷水入りの水瓶」を持っていけ。材料回収役のコボルドは、錬金薬で力を強化していやがる。こいつで洗い流してやんな！

ブルーエイディン少甲佐 ： うーっし、よくやった！　作戦成功だぜ！！　相手の補給を阻止するのも、有効な戦術だ。
これで、後の戦いが少しばかり楽になるってもんだ！

激戦地の豆知識

スウィグレール甲軍曹 ： ちょっと、そこのあんた！　聞いとくれよ！　ラプトルの鉤爪が必要で、さくっと倒したんだがよ。
肝心の鉤爪を採ってくるのも、さくっと忘れちまったんだよ！
あたしが射抜いたラプトルの死骸が、そこら辺に転がってるからよ。死骸から「ヴェロキラプトルの鉤爪」を持ってきとくれよ！
ああそうだ、私の射った矢が残ってたら、その「鋭い矢尻」も持ってきとくれ！

スウィグレール甲軍曹 ： ちょっと、そこのあんた！　「ヴェロキラプトルの鉤爪」と「鋭い矢尻」を採ってきてくれよ！
ありがとよ！　コボルド族は冶金術に長けてるからよ！　金属の矢尻がついた矢で射かけると、
それを拾い集めて、溶かして武器に変えてしまうのよ。
奴らに物資をあたえるなっていう上官の命令でよ、鉤爪で矢尻を作っているってわけよ！
使った矢も全部回収して、大事に再利用よ！



甲軍曹のひらめき

スウィグレール甲軍曹 ： 故郷の母ちゃんに、これまでずーっと、お前は本当に筋肉バカだねって言われてきたけどよ。閃いちまったんだよ！
魔獣クァールを飼いならしたら、コボルド族なんて、敵じゃねぇんじゃないかってよ！
「ヤング・クァール」を弱らせて、「巨大な麻袋」で捕まえてくれよ！
あたしは、力加減とか、まるでわかんねぇからよ。捕まえるのとか苦手なんだよ！

スウィグレール甲軍曹 ： ちょっと、そこのあんた！　クァールは、捕まえてくれたかよ！
すげぇよ、マジで「ヤング・クァール」じゃねぇかよ！　こいつさえ味方につけば、コボルド族なんて瞬殺じゃねぇかよ！
……でもこいつ、どうやって懐かせればいいんだよ……。やっぱりあたしって、母ちゃんの言うとおり筋肉バカなのか？

強行偵察部隊の捜索

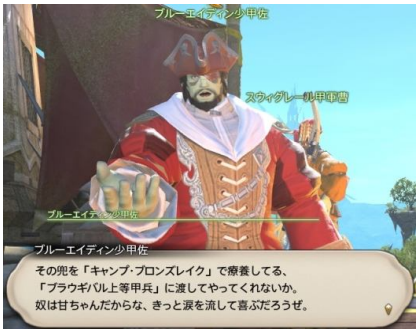
ブルーエイディン少甲佐 ： お前、なかなか戦える奴だな！　どうだ、もうひと仕事やってみねぇか。コボルド族の強行偵察部隊の捜索を手伝ってくれ。
オレの部下が、コボルド族が3匹ばかり、高台に上がってきたのを目撃したそうだ。
お前なら、敵部隊と遭遇しても始末できるだろ？

ブルーエイディン少甲佐 ： がっはっはっは！　お前の活躍を見させてもらったぜ。やるじゃねぇか、強ぇ奴は皆仲間だ！
ウチの部隊に勧誘したいくらいだぜ？
……しかし、お前が倒したコボルド族の動き。どこかで見たことがある気がするが……。はて……。

第129洞穴団

ブルーエイディン少甲佐 ： 先のコボルド族の強行偵察部隊の動き……　どこかで見たことがある気がしたんだが、思い出したぜ。
奴ら、「129オーダー・プリースト」の部隊だ。
129オーダー・プリーストは、コボルド族の第129洞穴団を率いる司祭だ。以前、ここにも侵入されたことがある。
夜間に、それも雨の日だったこともあって、慣れない新入り……ブラウギバルに怪我をさせちまった。家族の長である、オレの責任だ。
幸いブラウギバルは怪我だけですんだがな。あれからオレは、家族に傷を負わせた奴をブチ殺すために、ずっと探していたのさ。
129オーダー・プリーストが現れたということは、近くに「コボルド式爆弾」があるはずだ。
逃走時に爆破して追撃を逃れるのが、奴らのやり方だからな。
……よし、そいつをいただいて、先に爆破しちまおう。音を聞きつけた奴は、きっと様子を見にくる。その時がブチ殺すチャンスだ！
……お前は強い、この作戦にのってほしい。この「小さな火種」を渡しておく。「コボルド式爆弾」を爆破する時に使うといいぜ。
奴らは姑息だ。裏をかいて、ここに攻めてくる可能性もある。オレはここに残って警戒を強めておくぜ。

ブルーエイディン少甲佐 ： どうだ！？　129オーダー・プリーストは現れたか！？
……こいつは、奴の兜か！？　よくやった、倒してくれたんだな！
その兜を「キャンプ・ブロンズレイク」で療養してる、「ブラウギバル上等甲兵」に渡してやってくれないか。
奴は甘ちゃんだからな、きっと涙を流して喜ぶだろうぜ。
命を賭けて戦う奴らは、皆オレの家族だ。今日からお前も家族の一員だ！　また、いつでも来いよ！　待ってるからな！



ブラウギバル上等甲兵 ： 君は……ああ、この間の冒険者だね。ブルーエイディン隊長は、元気にしてたかい？
こ、これは、僕がやられた129オーダー・プリーストの！？　そっか、隊長、僕なんかのために……　探し続けてくれたんだ……ぐすっ。
そして、それを君が倒しただなんて……ぐすっ。怪我が治ったら自分で倒すつもりだったのに、なんてね。
……ありがとう、冒険者さん。感謝するよ！

海賊の流儀

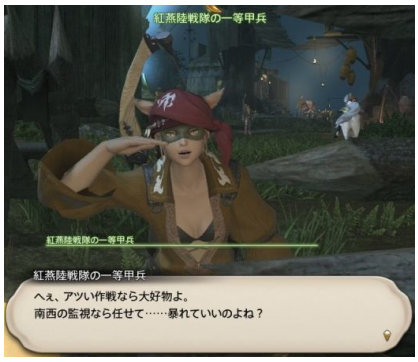
ブルーエイディン少甲佐 ： 俺たちは、今でこそ「黒渦団」だが、もとは海賊だ。メルウィブ提督が提督に就任されたときに足を洗ったのさ。
とはいえ海賊が皆、協力的なわけじゃねぇ。
……だが、海賊というのは、昔から富と武勇伝には目がないもんだ。
海賊どもを、その気にさせるには、「蛮族を牽制すること」が、オイシイってことを、見せつけやりゃあいい。
俺たち海賊部隊が、コボルド族相手に大活躍して、「黒渦団」から特別報酬を得るようなことがあれば、
海賊どもも、眼の色変えるに違いねぇ。
お前、今の話を、俺の部下どもに伝えてくれよ。ほかならないスラフスイスの頼みだ。少しはカッコイイところを見せてやるさ。

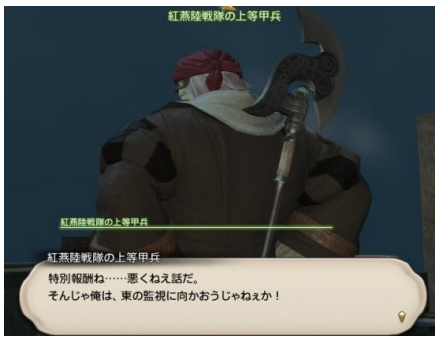
紅燕陸戦隊の二等甲兵 ： オデ、特別報酬ホシイ！！　イッパイの飯、ウマい酒！！　オデ、武器庫、確認する！

紅燕陸戦隊の甲兵長 ： スカッと暴れて報酬付き、と。上官が言うなら間違いねぇな。すぐにでも準備しようじゃないか。

紅燕陸戦隊の一等甲兵 ： へぇ、アツい作戦なら大好物よ。南西の監視なら任せて……暴れていいのよね？

紅燕陸戦隊の上等甲兵 ： 特別報酬ね……悪くねえ話だ。そんじゃ俺は、東の監視に向かおうじゃねぇか！



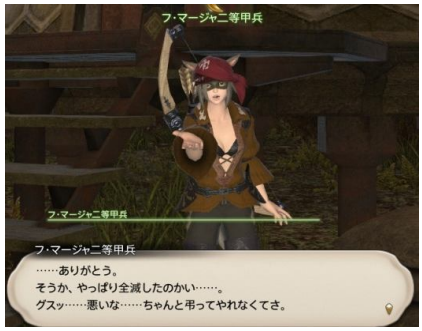


ブルーエイディン少甲佐 ： よう、ご苦労だったな。どうだ、海賊上がりの俺の部下たちは。わかってんだよ、あいつらも。
やると言ったからにはやってくれるさ。さて、久しぶりに暴れてやるか！　リムサ・ロミンサの海賊魂ってのを見せてやるぜ。

生き残るということ

フ・マージャ二等甲兵 ： アタシらを、最狂部隊なんて呼ぶヤツもいるけどさ。そんな名声の陰で、死んでいく仲間が何人もいるんだ。
今だって帰ってこない新人が4人もいるんだよ……。
アンタ、もし仲間を……その遺体を見つけたら、「紅蓮の首飾り」を回収してくれないかい。
せめて、きちんと家族に伝えてやらなくちゃね……。

フ・マージャ二等甲兵 ： ああ、アンタか。アタシの仲間はみつかったかい……？
……ありがとう。そうか、やっぱり全滅したのかい……。グスッ……悪いな……ちゃんと弔ってやれなくてさ。
いけね……泣いてる暇なんかなかったよ。仲間の分まで、アタシらが戦って生き延びなくちゃな。
……それが、生き残った者の使命だと思っているさ。



名声を我が手に

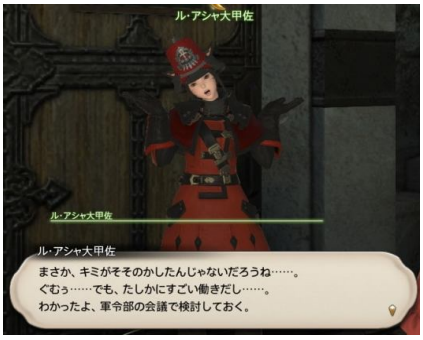
ブルーエイディン少甲佐 ： さっそく、コボルド族の出鼻を挫こうじゃねぇか。俺たちは奴らが新たに導入した、「新型錬金釜」の破壊作戦を実行する。
お前には、連中の目を逸らすための陽動を頼みたい。手薄になった新型錬金釜の管理庫は、俺の部下がぶっ壊すからよ。
「アイアンレイク」に行き、「コボルド軍の戦略物資」を、この「手製爆弾」を使って、派手に爆発してくれ。
さぁ、祭りのはじまりだ！

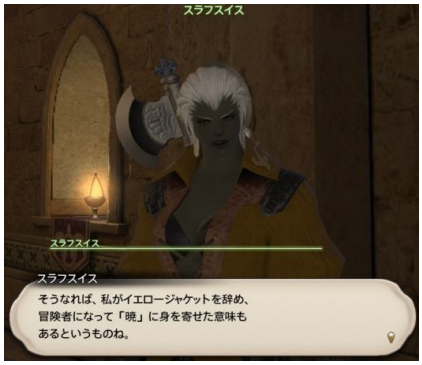
ブルーエイディン少甲佐 ： よう、戻ってきたか！　お前の陽動のおかげで、作戦は大成功だったぜ！
これでしばらくは、コボルド族の連中も、おとなしくなるだろうさ。あとは、これで報酬がもらえればバッチリだな。

成果を貴方に

ブルーエイディン少甲佐 ： お前の陽動のおかげで、作戦は大成功だった。俺たちだけじゃ、こう上手くはいかなかったろう。感謝してるぜ。
さて、もと海賊が活躍したという武勇伝は作った。あとは富だ……「黒渦団」から特別報酬をもらえれば、
フラフラしている海賊連中も協力するようになるだろう。
「黒渦団」司令部の「ル・アシャ大甲佐」にこの「新型錬金釜破壊作戦報告書」を届けてくれ。一連の話をまとめてある。
そして、スラフスイスに言っといてくれよ。……俺はいつまでも待ってるってな。

ル・アシャ大甲佐 ： キャンプ・オーバールックで、何か騒ぎがあったみたいだけど……。キミ、なにか知っている？
なんだこれ……ブルーエイディン少甲佐からの報告書？　へええ、新型錬金釜を！　すっごい戦果だね！
メルウィブ提督にも報告しておくよ！
……って、特別報酬の要求ぅ！？　なんなのこれ！　そんな話、知らないよ！？
まさか、キミがそそのかしたんじゃないだろうね……。ぐむぅ……でも、たしかにすごい働きだし……。
わかったよ、軍令部の会議で検討しておく。





スラフスイス ： おかえりなさい。さっき、昔の仲間から連絡を受けたところなの。フフ、無事に特別報酬が通ったみたいよ。
海賊たちをまとめるために、武勇伝と富で釣るなんてね。さすがブルーエイディンってところかしら。
さっそく海賊のなかで噂になってるみたい。
ブルーエイディンとは、私がイエロージャケットだったころ、何度か、同じ戦場に立った、戦友って間柄でね。
男と女の関係だったこともあったかな。
……おそらく、メルウィブ提督も、海賊諸派をまとめるために、この程度のことはすでにやっていたはず。
海賊は良くも悪くも直情的だから、長続きはしないと思うわ。それでも、こうやって続けていれば、
少しでも協力者を増やしていけると思うの。
そうなれば、私がイエロージャケットを辞め、冒険者になって「暁」に身を寄せた意味もあるというものね。